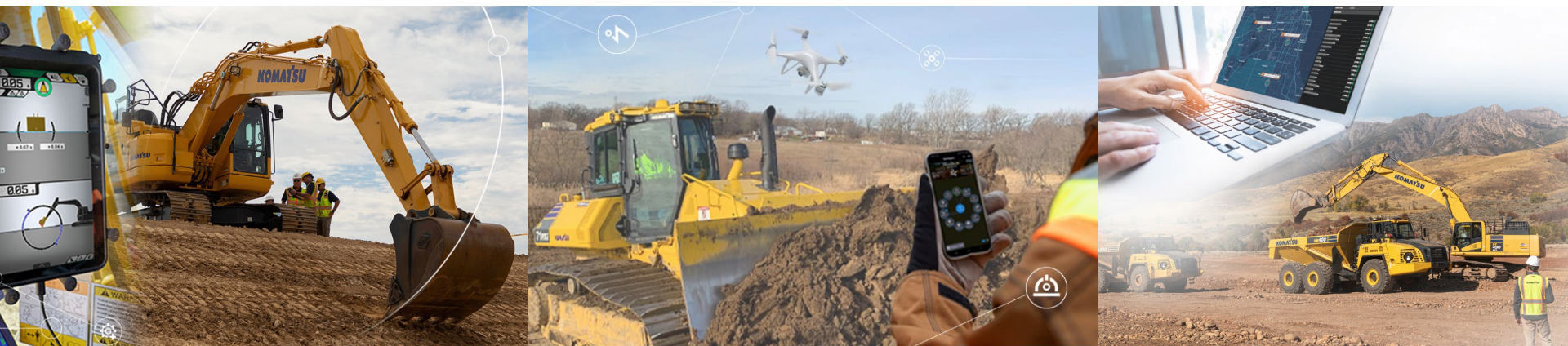


KOMATSU

【証券コード】6301

個人投資家さま向けオンライン会社説明会



成長戦略と業績および株主還元について

コマツ

取締役 兼 専務執行役員 CFO 堀越 健

2023年11月29日（水）

1. コマツの概要
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

1. コマツの概要

2. 中期経営計画

—成長戦略とESG課題解決—

3. 業績および株主還元について

創業者 竹内 明太郎（高知県宿毛市出身）の志

工業富國基

工業は国を富ませる基なり

人材育成こそが工業富國基の基本

➤ 鉱山機械開発のため小松鉄工所を設立（1917年）

➤ 1921年5月13日 株式会社小松製作所の誕生

創業の精神は、遺伝子として受け継がれる

～世界に通用する技術を生み出し、世界を相手に勝負する～



創業者 竹内 明太郎

◆品質第一

◆技術革新

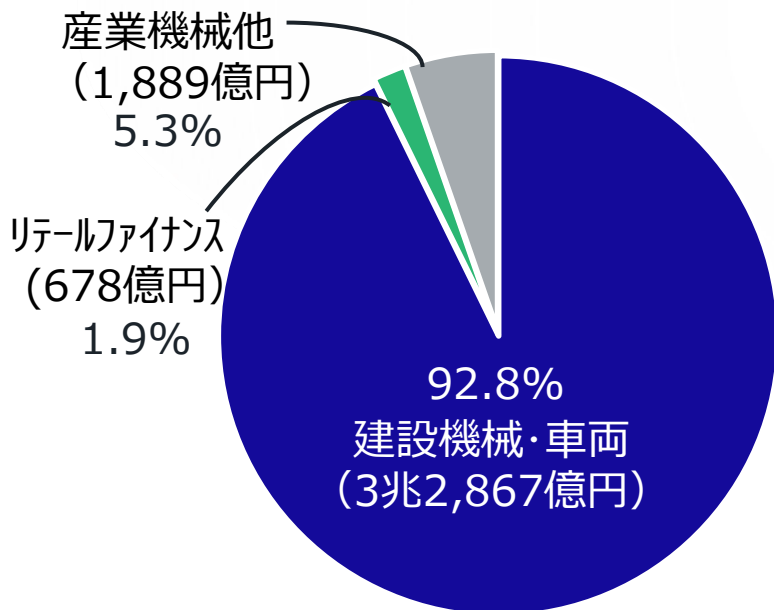
◆海外への雄飛

◆人材育成

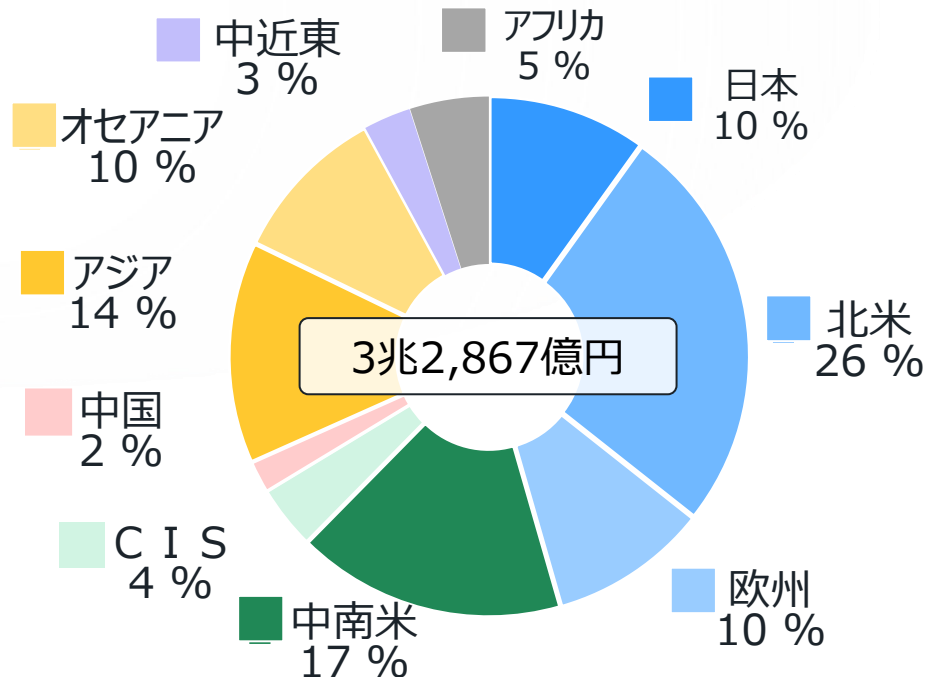
コマツの概要（2023年3月期実績）

- ・設立 : 1921年5月13日
- ・連結売上高 : 3兆5,435億円
- ・営業利益 : 4,907億円
- ・総資産 : 4兆8,758億円
- ・連結子会社 : 211社
(日本) 12社 (海外) 199社
- ・連結従業員数 : 64,343人
社員の約68%は外国籍

事業別の売上高*構成



建設機械・車両事業の地域別売上高*構成



*売上高は外部顧客向け（セグメント間取引消去後）ベース

主要商品 (建設・鉱山機械)

- 建設・鉱山機械はインフラ開発や都市化の促進、鉱山資源の採掘に使われる。
- 林業機械は木材の持続的な活用に貢献。グループ会社化を通じ事業を拡大。



油圧ショベル



ブルドーザー



ダンプトラック



クラッシャー付
油圧ショベル



土木



鉱山・採石



解体・産廃・リサイクル



林業



農畜産



物流



ハーベスター



ホイールローダー



フォークリフト

主要商品（鉱山機械：採掘工法別）

- ・ 鉱山の採掘工法は、地表近くを採掘する「露天掘り」と地層深くを採掘する「坑内掘り」があり、採用する工法によって使用される鉱山機械が異なる。
- ・ グループ会社のコマツマイニングを中心に、鉱山機械のラインナップ拡充を推進中。

露天掘り

主な製品



油圧ショベル



ダンプトラック



クローショベル



坑内掘り

主な製品




ロードホールドラップ



ドリルジャンボ



採掘機

 コマツマイニング製鉱山機械

主要商品 (産業機械・その他)

- 世界トップクラスのシェア
半導体露光装置用光源エキシマレーザー(ギガフトン)、大型ACサーボプレス(コマツ産機)、
トランスファマシン、半導体シリコンウエハー用ワイヤーソー(コマツNTC)

半導体 製造設備



半導体露光装置用光源
(エキシマレーザー)
[ギガフトン]



半導体製造用
温調機器
[KELK]



半導体シリコンウエハー用
ワイヤーソー
[コマツNTC]

自動車 製造設備



大型ACサーボプレス
(自動車ボディ成形用)
[コマツ産機]



トランスファマシン
(自動車部品加工)
[コマツNTC]



車載電池製造装置
[コマツNTC]

グローバル開発・生産体制

- 本体の組立は、需要の大きい地域で行う。
- 開発と生産の一体化：開発・生産機能を持つ工場＝「マザー工場」
- 主要コンポーネントは日本で開発・生産し、国内で技術革新を生み出す。

建設機械・車両の主な生産拠点

● ● ● …「マザー工場」

コマツドイツ マイニング部門



コマツドイツ 建機部門



コマツイタリア製造



コマツアメリカ



コマツフォレスト



栗津工場



大阪工場



茨城工場



栃木工場



現地組立・生産の目的

- ① 顧客の信頼を勝ち取る
- ② 品質問題の早期解決
- ③ 現地仕様の取り込み
- ④ リードタイムの短縮
- ⑤ 為替リスク対応

地域別の生産拠点数

日本	米州	欧州 CIS	中国	アジア オセアニア	中近東 アフリカ	合計
12(4)	19(1)	14(4)	6	8	1	60(9)

()内はマザー工場数

コマツの強み ①キーコンポーネントの自社開発・自社生産

・ 自社開発・自社生産だからこそできること

- ① 技術革新の継続
- ② 全世界に同一品質のコンポーネントを安定的に供給
- ③ コンポーネントの再生ビジネス
- ④ 取り付けたセンサーからの情報を解析した予知保全

主なキーコンポーネント

エンジン

コントロールバルブ

ピストンポンプ

走行モーター

アクスル（車軸）

電子制御機器

トランスミッション

旋回電気モーター

インバーター（変換器）

キャパシター（蓄電器）

発電機モーター

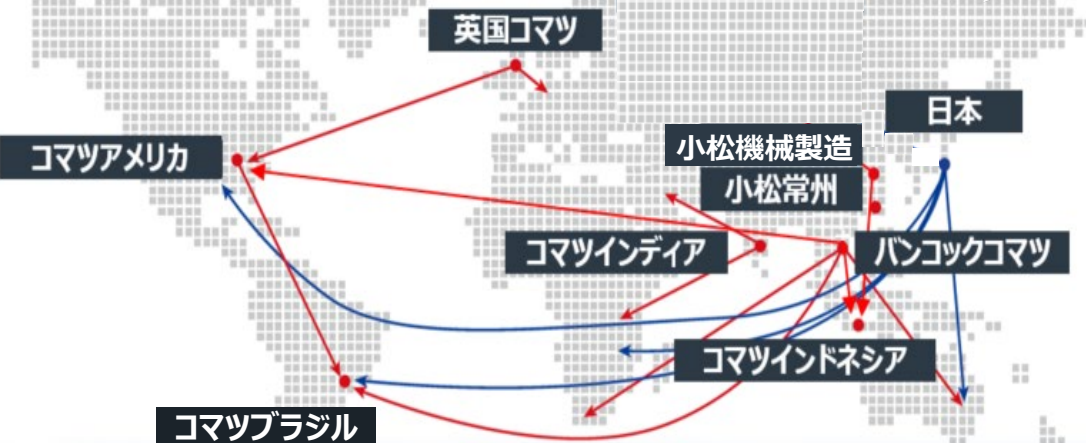
コマツの強み ② 環境変化に強い生産・調達体制

- ・ 需要・為替の変動など、各工場の生産能力を有効活用し、最適な工場生産して輸出。
- ・ パンデミック・自然災害・地政学的リスクなどの環境変動に強い生産調達体制の構築を推進。

グローバルクロスソース体制

< 中型油圧ショベルのクロスソーシング例 >

- 海外拠点間のクロスソース
- 日本からのソーシング



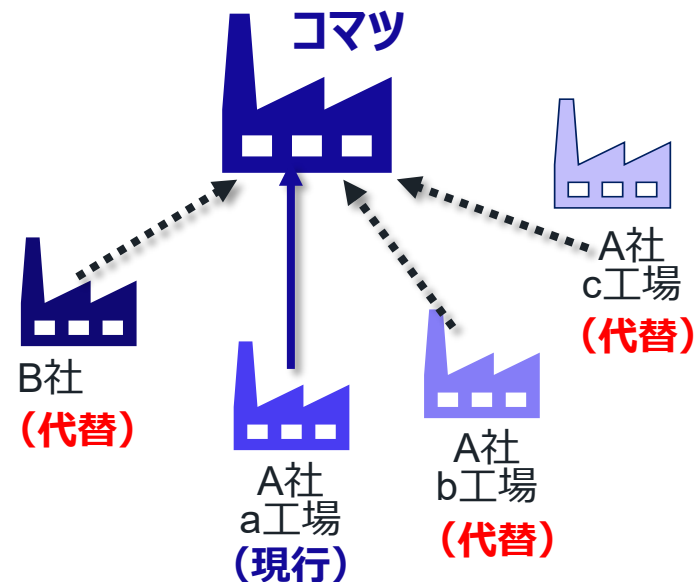
< 必要条件 >

- ① ベースマシンの統一
- ② 生産管理システムの統一
- ③ 生産・設計BOM※の統一
- ④ 製造プロセス・品質基準の統一

※BOM: Bill of Material 部品構成表

調達マルチソース体制

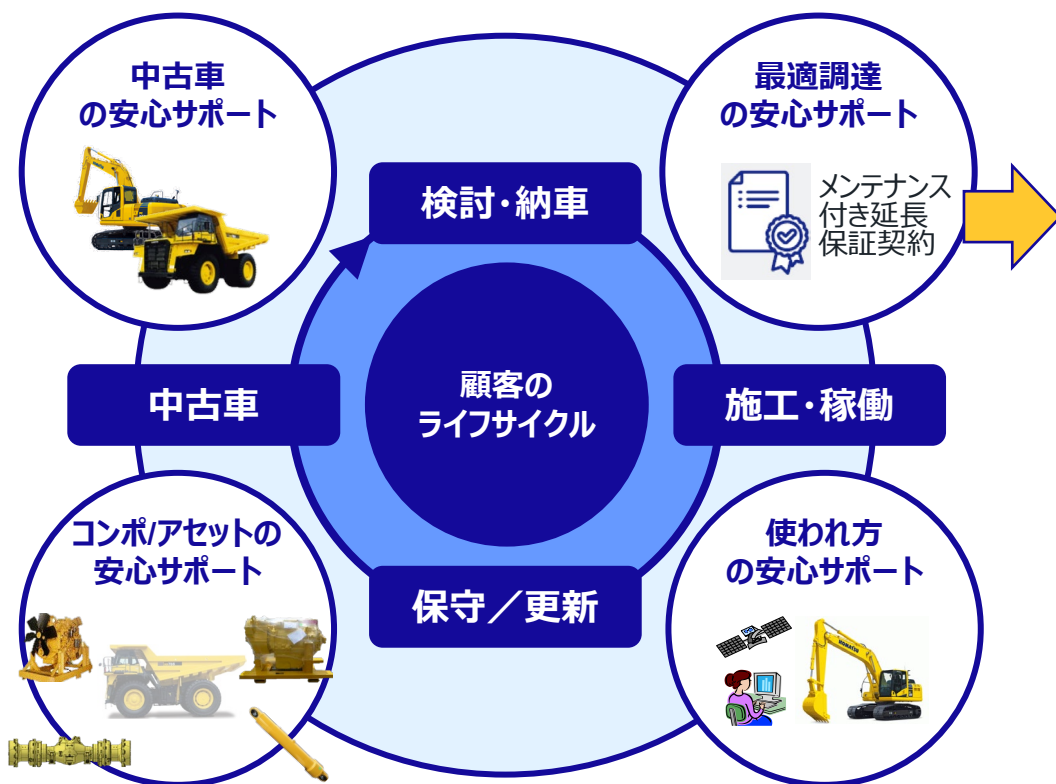
複数メーカーからの部品購入、現地調達の拡大



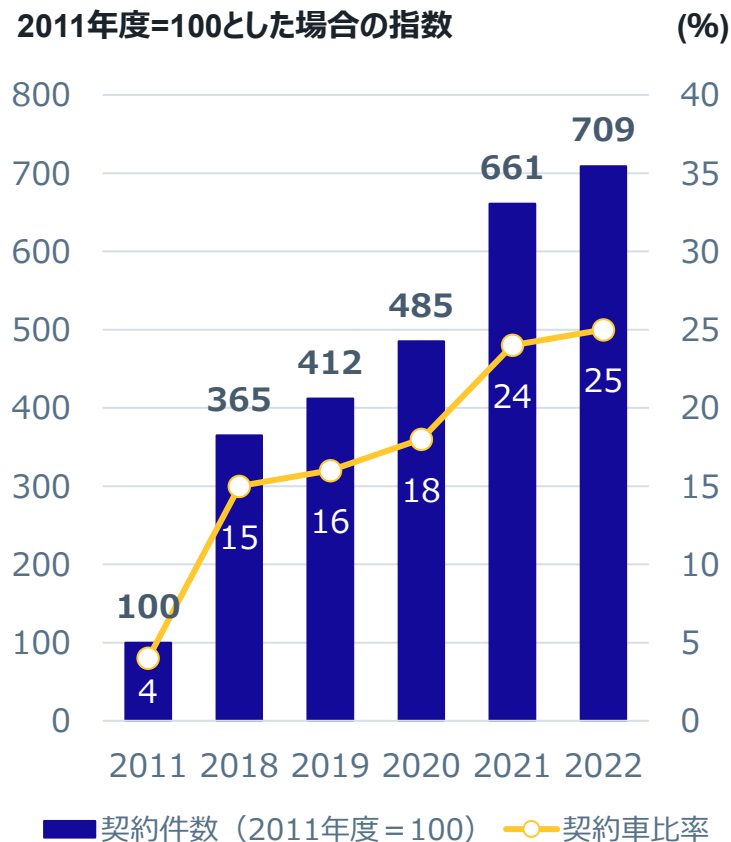
コマツの強み ③ ライフサイクルサポートビジネス

- 建設機械は購入後の定期的なメンテナンスや修理などのサポートが必要不可欠。
- 新車購入から中古車売却まで、途切れることなくサポートを継続。販売後も安定的に収益をあげるビジネスモデルを更に強化。

ライフサイクル安心サポート



メンテナンス付き延長保証契約車両推移



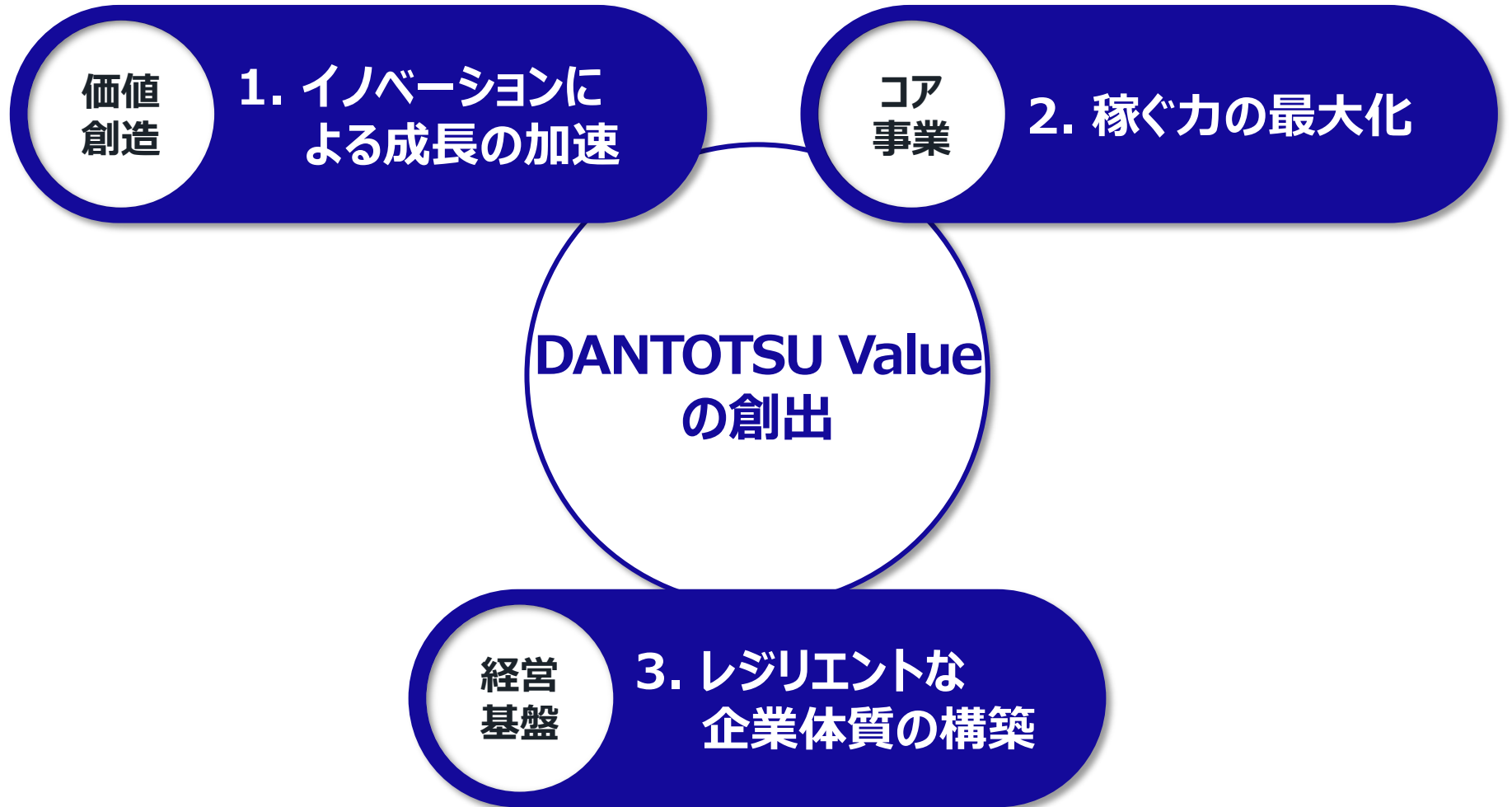
1. コマツの概要

2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—

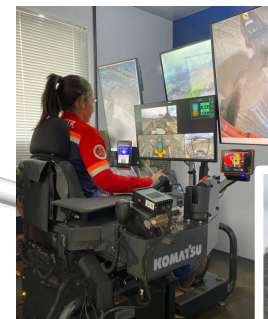
3. 業績および株主還元について

DANTOTSU Value

Together, to "The Next" for sustainable growth



電動化建機の開発・導入



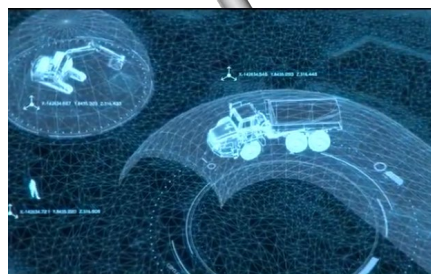
鉱山自動化への取り組み



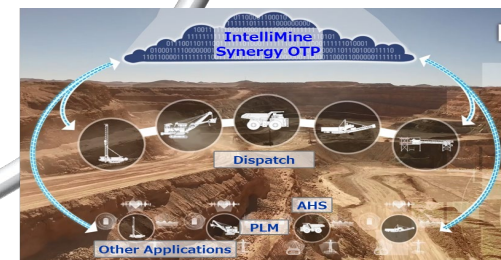
現場を最適化する
新たな顧客価値の創造

イノベーションによる 成長の加速

カーボンニュートラルに向けた
価値（モノ・コト）づくりの挑戦



DXスマートコンストラクション の推進



鉱山用オープンテクノロジー プラットフォーム

電動化建設・鉱山機械の開発・導入

- 建設・鉱山機械の機種・クラス・地域ごとに様々な方法でアプローチ。

	～2021	2022	2023	～2030
小型ショベル フォークリフト	鉛バッテリー 有線電動 バッテリー電動 電動ミニショベル PC30E-5 Hondaと協業 PC01E-1	リチウムバッテリー 電動フォーク FE25G FE30G	リチウムバッテリー 電動ショベル PC30E/33E-6	Hondaと協業 PC05E-1 23年度市場導入 3トン量産モデル PC30E/33E-6 23年度市場導入
中大型 ショベル	ハイブリッド PC200LCE/210LCE-11 23年度市場導入	リチウムバッテリー PC138E-11 23年度市場導入	水素エンジン 燃料電池 23年 コンセプト マシン発表	
ホイール ローダー		バッテリー電動 ムーク社と共同開発 22年コンセプトマシン発表		
鉱山機械 (地表)	ディーゼルエレクトリック、 トロリー 有線電動	パワーアグノスティック 21年 コンセプトマシン発表 テストベンチ 設置	バッテリー電動 水素エンジン 燃料電池	パワーアグノスティック 25年：バッテリートロリー 30年：燃料電池
鉱山機械 (地下)	ハイブリッド ドリルジャンボ 21年度試作 24年度量産	バッテリー電動 ボルタ 23年度試作 24年度量産		LHD 23年度試作 24年度量産

出力サイズ

AHSを含む鉱山自動化への取り組み

- 2008年コマツが世界で初めて商用導入した、鉱山向け無人ダンプトラック運行システム。670台超が稼働中。
- 鉱山全体の自動化のため、超大型油圧ショベルやブルドーザーの遠隔操作・自動運転を促進。

AHS 5カ国

(オーストラリア、カナダ、ブラジル、チリ、スウェーデン)

22現場にて670台超※

※2023年9月末時点

Anglo American社銅鉱山 (チリ) へ AHS導入



ALV※の開発において協業を開始



コマツ製無人ダンプトラックと、トヨタ製ALV (コンセプト車両)

KOMATSU

※ライトビークル (Autonomous Light Vehicle)

超大型油圧ショベルの遠隔操作と無人専用運搬車両



大型ICTブルドーザー遠隔操作の商用稼働を開始

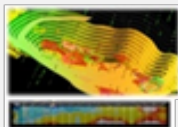


鉱山用オープンテクノロジープラットフォームによる事業推進

- お客さまである鉱山会社は、全データを一元管理し、工程から工程を遅滞なく繋ぐことで鉱山全体の最適化を目指している。
- コマツは鉱山用プラットフォームを開発。お客様の現場でのテスト導入を進め、鉱山全体の最適化に貢献。

お客様の現場（鉱山）

工程



計画



ドリル&発破



積込&運搬



粉砕



輸送



出荷

一元管理



コマツプラットフォーム
(鉱山全体の最適化)

DXスマートコンストラクションの促進

- デジタル技術により部分最適された各プロセスが「つながる」ことで、施工全体を最適化。
- DXスマートコンストラクションのビジネスモデルを北米、欧州5カ国、オーストラリア、東南アジアに展開



施工のデジタルトランスフォーメーションが起こる

中期経営計画の経営目標について

- 経営目標は、成長性、収益性、効率性、健全性、およびESGの構成・内容を継続し、ESGには、新たに「2050年カーボンニュートラル」をチャレンジ目標として追加。
- 株主還元は、成長戦略への重点投資を優先しながら、安定的な配当の継続に努める方針を継続。















項目	経営指標	経営目標
成長性	売上高成長率	業界水準を超える成長率
収益性	営業利益率	業界トップレベルの利益率
効率性	ROE	10%以上
健全性	ネットD/ELシオ	業界トップレベルの財務体質
リテール ファイナンス事業	ROA	1.5% – 2.0%
	ネットD/ELシオ	5倍以下
ESG	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> • CO₂排出削減：2030年50%減（2010年比） <p style="text-align: center;">2050年 カーボンニュートラル (チャレンジ目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 再生可能エネルギー使用率：2030年50%
	外部評価	<ul style="list-style-type: none"> • DJSI*選定（ワールド、アジアパシフィック） • CDP** Aリスト選定（気候変動、水リスク）
株主還元	連結配当性向	<ul style="list-style-type: none"> • 成長への投資を主体としながら、株主還元(自社株買いを含む)とのバランスをとる • 連結配当性向を40%以上とする。

*ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インディシーズ：米国S&Pダウ・ジョーンズ社とスイスのロベコ・サム社によるSRI指標。

**企業や政府が温室効果ガス排出量を削減し、水資源や森林を保護することを推進する国際的な非営利団体

サステナビリティ基本方針と中期経営計画のKPI

- 2021年に制定したサステナビリティ基本方針に基づき、事業活動を通じて社会に貢献していくことを目指している。
- マテリアリティ（重要課題）と関連性の高い、10のSDGsゴールを選定。
- 中期経営計画の成長戦略を通じたESG課題解決を着実に遂行していくためにKPIを設定。

	SDGsとの関係	中期経営計画のKPI* 24年度目標 例
人と共に マテリアリティ： 「社員」「人権」	 ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナシップ	女性管理職比率（グループ連結） FY2022実績 10.3% → 目標 13%以上
社会と共に マテリアリティ： 「顧客」 「倫理・統治」 「地域社会」	 産業と技術革新  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナシップ	スマコン導入現場数（世界計） FY2022実績 8,955 現場 → 目標（単年度） 13,000 現場 AHS累計導入台数 FY2022実績 643 台 → 目標 790 台
地球と共に マテリアリティ： 「環境」	 クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナシップ	生産によるCO2排出削減率(2010年比) FY2022実績 △43% → 目標 △45% 製品使用のCO2排出削減率(2010年比) FY2022実績 △21% → 目標 △24%

*KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）

1. コマツの概要

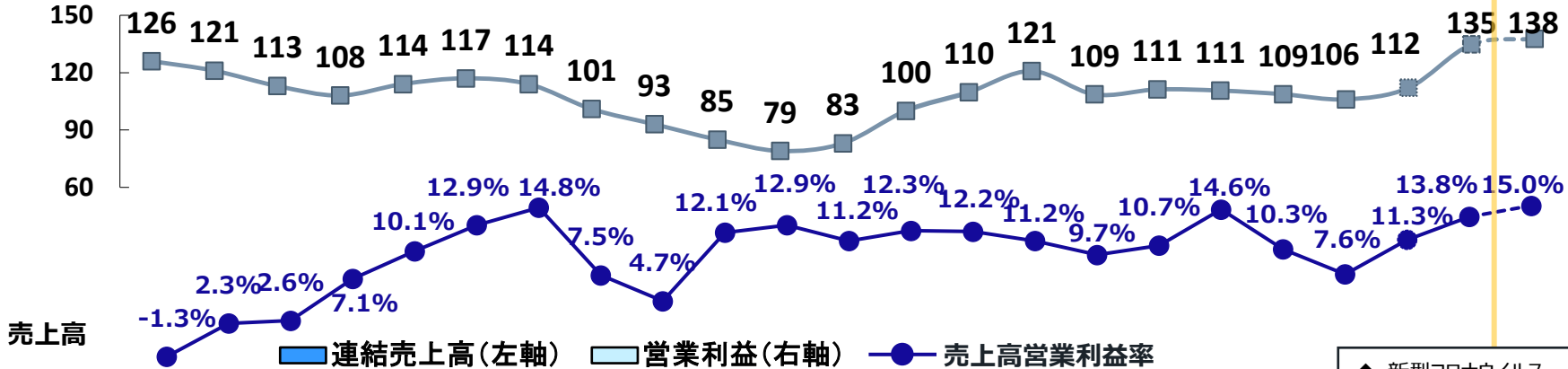
2. 中期経営計画

—成長戦略とESG課題解決—

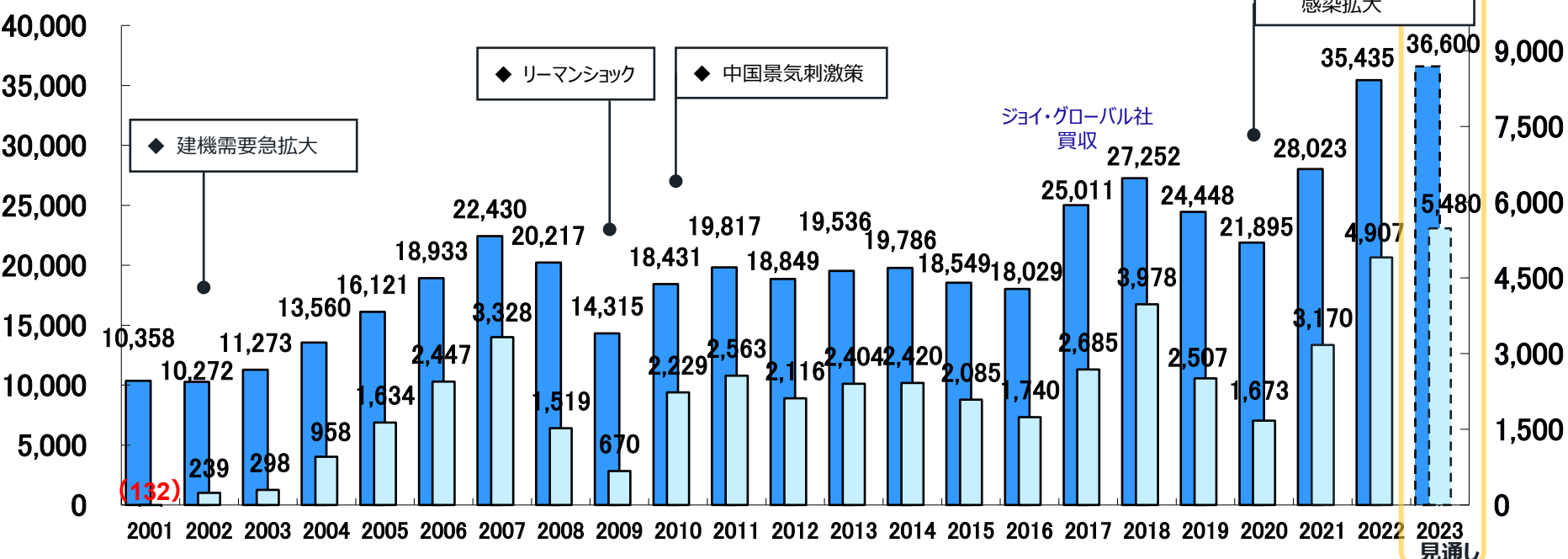
3. 業績および株主還元について

年間業績推移

為替レート (円/ドル)



売上高 (億円)



営業利益 (億円)

海外生産拡大
多角化

選択と集中
ICTを活用したバリューチェーンの拡大

顧客価値創造

2023年度の業績見通し（概要）

- 売上高は、前年比+3.3%増収の3兆6,600億円（4月見通しから+2,780億円上方修正）。
- 営業利益は、前年比+11.7%増益の5,480億円（4月見通しから+570億円上方修正）。
- 1株当たり配当金は、144円（4月見通しから+5円の変更）。

下期為替の前提 1ドル:135円、1ユーロ:148円、1豪ドル:88円に見直し

金額単位：億円	2022年度 (A) ¥134.8/USD ¥140.3/EUR ¥92.5/AUD	2023年度 (最新見通し) (B) ¥137.7/USD ¥150.3/EUR ¥90.3/AUD	2023年度 (4月見通し) ¥125.0/USD ¥133.0/EUR ¥83.0/AUD	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
売上高	35,435	36,600	33,820	+1,165	+3.3%
営業利益	4,907	5,480	4,910	+573	+11.7%
売上高営業利益率	13.8%	15.0%	14.5%	+1.2 ¹ ポイント	-
当社株主に帰属する当期純利益	3,264	3,400	2,990	+136	+4.2%
ROE	13.7%	13.0%	11.7%	▲0.7 ¹ ポイント	
1株当たり配当金（円）	139円	144円	139円	+5円	
配当性向	40.3%	40.1%	44.0%		

2023年度の各セグメント売上高と利益の見通し

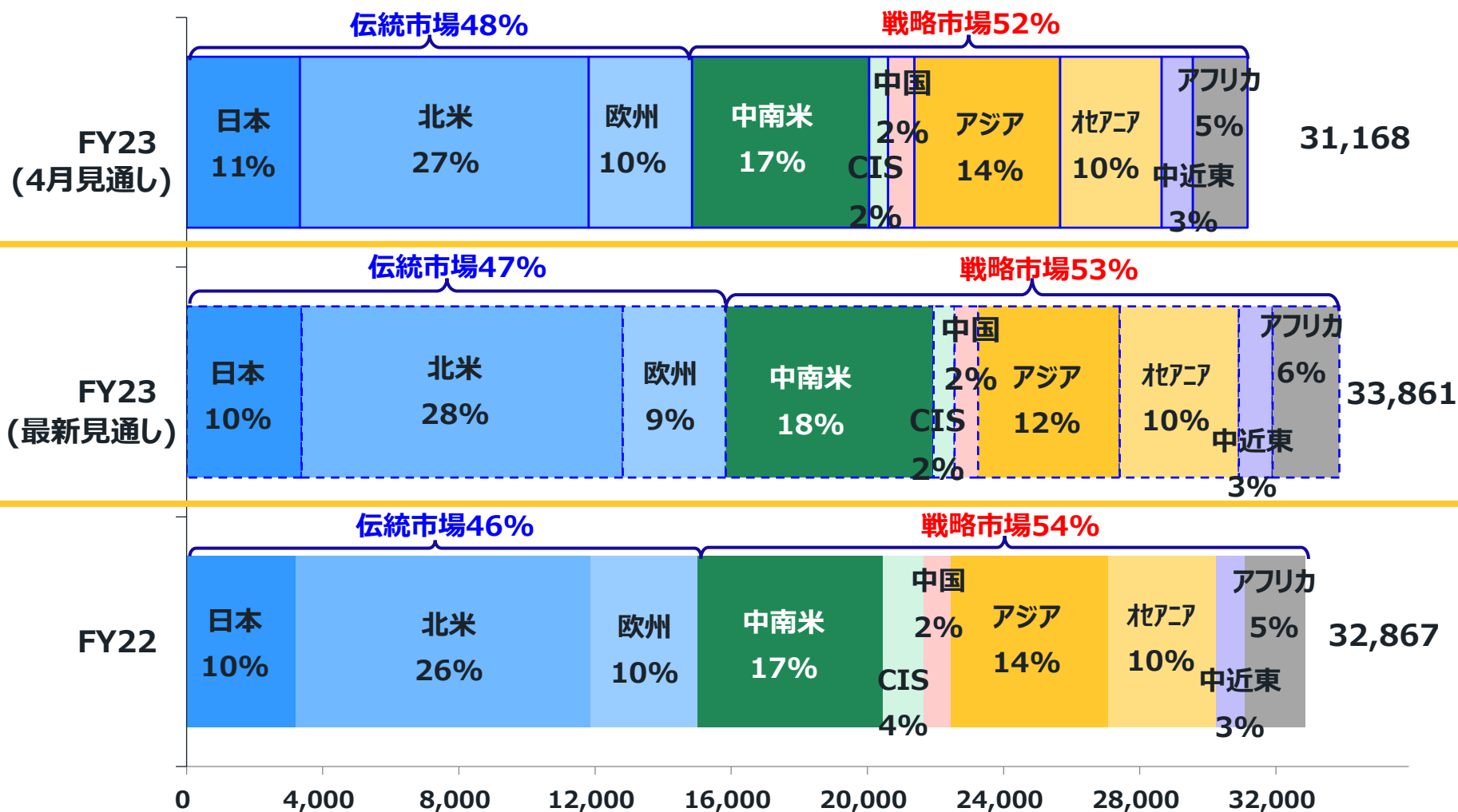
- 建設機械・車両部門の売上高は3兆4,040億円。セグメント利益は5,230億円。
- リテールファイナンス部門の売上高は950億円。セグメント利益は210億円。
- 産業機械他部門の売上高は2,010億円。セグメント利益は170億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2022年度 (A)		2023年度 (最新見通し) (B)		2023年度 (4月見通し)		前年比 (B) - (A)		
							増減	増減率	
売上高	35,435		36,600		33,820		+1,165	+3.3%	
建設機械・車両	(32,867)	32,966	(33,861)	34,040	(31,168)	31,380	(+994) +1,074	(+3.0%) +3.3%	
リテールファイナンス	(678)	856	(738)	950	(645)	835	(+60) +94	(+8.9%) +10.9%	
産業機械他	(1,889)	1,909	(2,001)	2,010	(2,007)	2,010	(+111) +101	(+5.9%) +5.3%	
消去	▲ 297		▲ 400		▲ 405		▲ 103	-	
セグメント利益	□ 13.9%	4,935	□ 15.2%	5,570	□ 14.7%	4,980	□ +1.3ポイント	+635	+12.9%
建設機械・車両	□ 13.5%	4,436	□ 15.4%	5,230	□ 14.8%	4,630	□ +1.9ポイント	+794	+17.9%
リテールファイナンス	□ 31.8%	273	□ 22.1%	210	□ 20.4%	170	□ ▲9.7ポイント	▲63	▲23.0%
産業機械他	□ 11.8%	226	□ 8.5%	170	□ 11.4%	230	□ ▲3.3ポイント	▲56	▲24.7%
消去または全社	1		▲ 40		▲ 50		▲ 41	-	

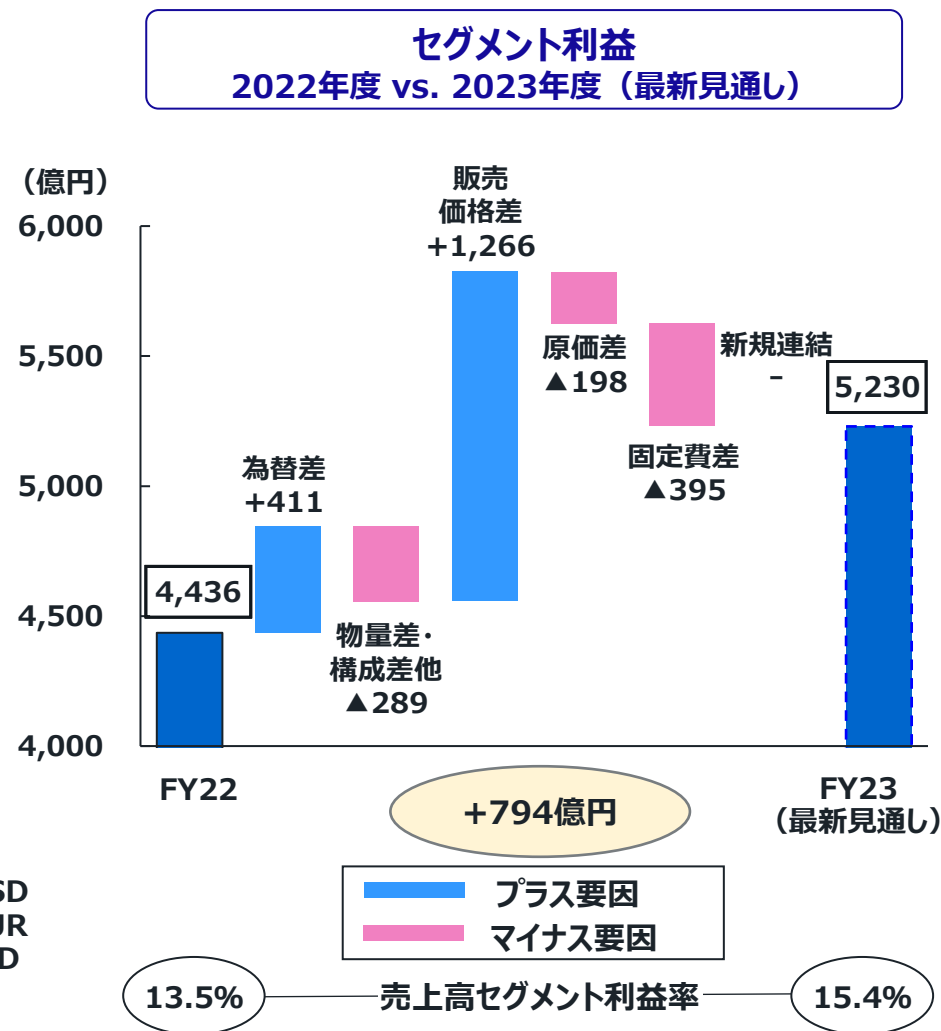
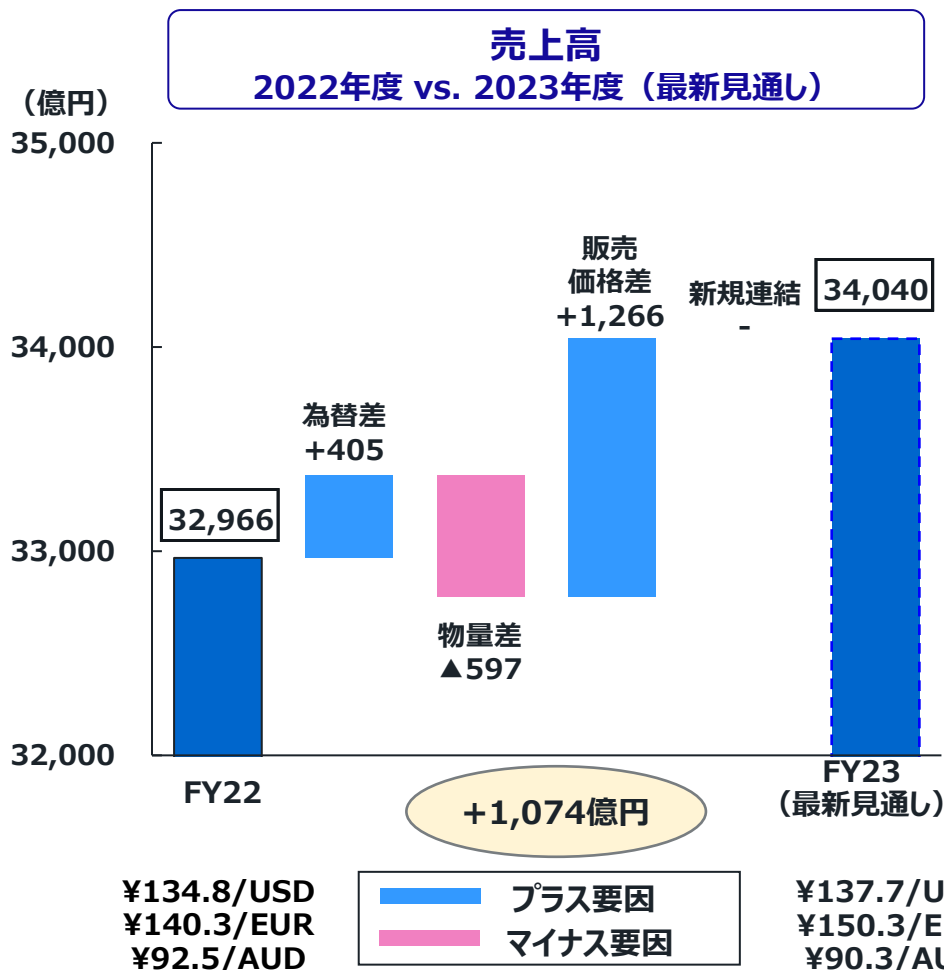
<建設機械・車両> 地域別売上高（外部顧客向け）

- 外部顧客向け売上高は、前年比+3.0%増収の3兆3,861億円。
- 北米、中南米などで売上高が大きく増加。CIS、アジアなどで売上高が大きく減少。
- 伝統市場の比率は47%、戦略市場の比率は53%。



<建設機械・車両> 2023年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

- 売上高は、為替および販売価格のプラス影響により、前年比+1,074億円増収。
- セグメント利益は、原価や固定費の増加を為替および販売価格のプラス影響により吸収し、前年比+794億円増益。
- 売上高セグメント利益率は前年比+1.9ポイント上昇し15.4%。

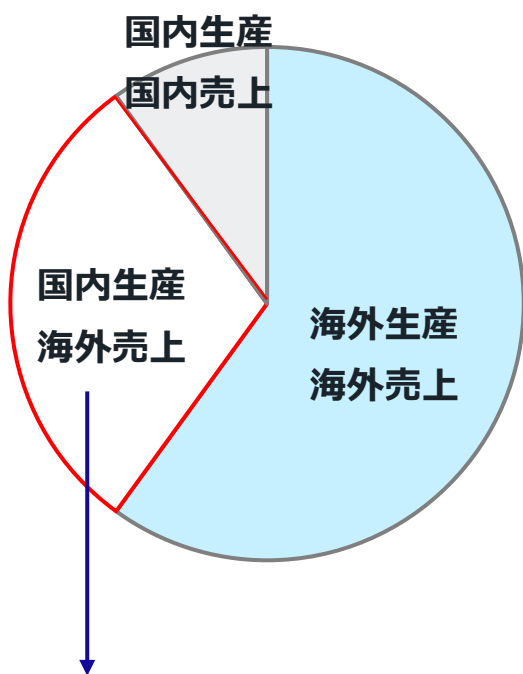


<建設機械・車両>セグメント利益分析

- 建設機械・車両部門のセグメント利益を「為替影響」と「販売価アップと原価上昇」の切り口で分析

為替影響

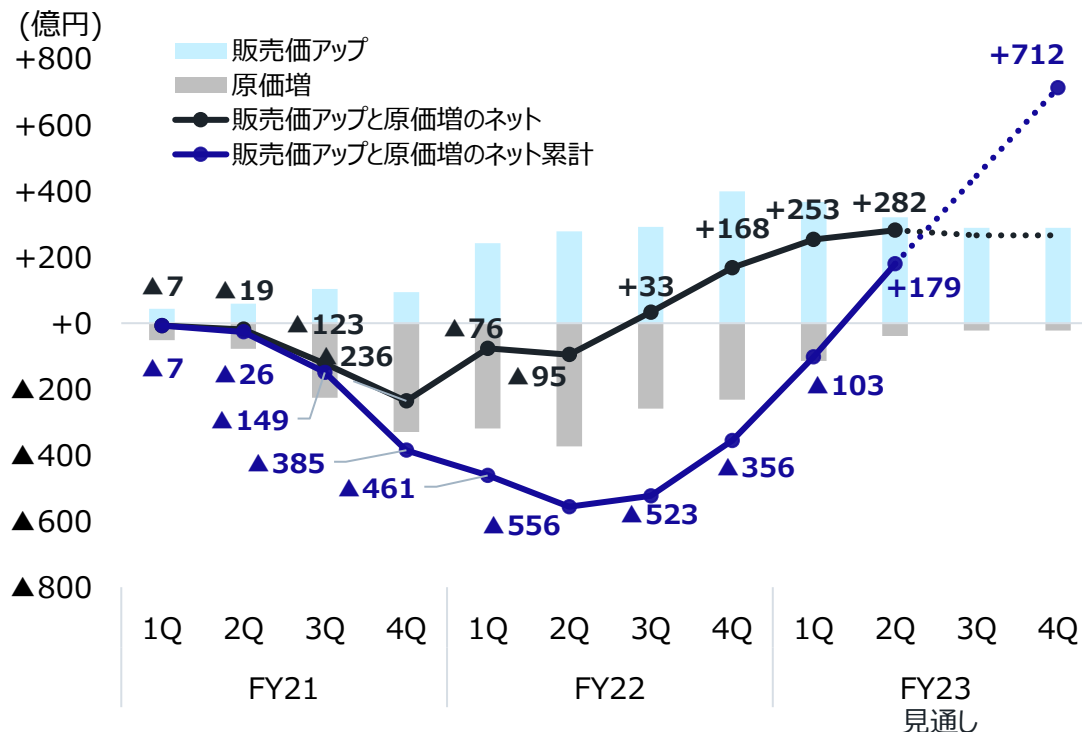
国内と海外の生産と販売の構成



日本から輸出する部品や本体は円建て生産、外貨建て売上
⇒ **利益に為替変動の影響**

販売価アップと原価上昇

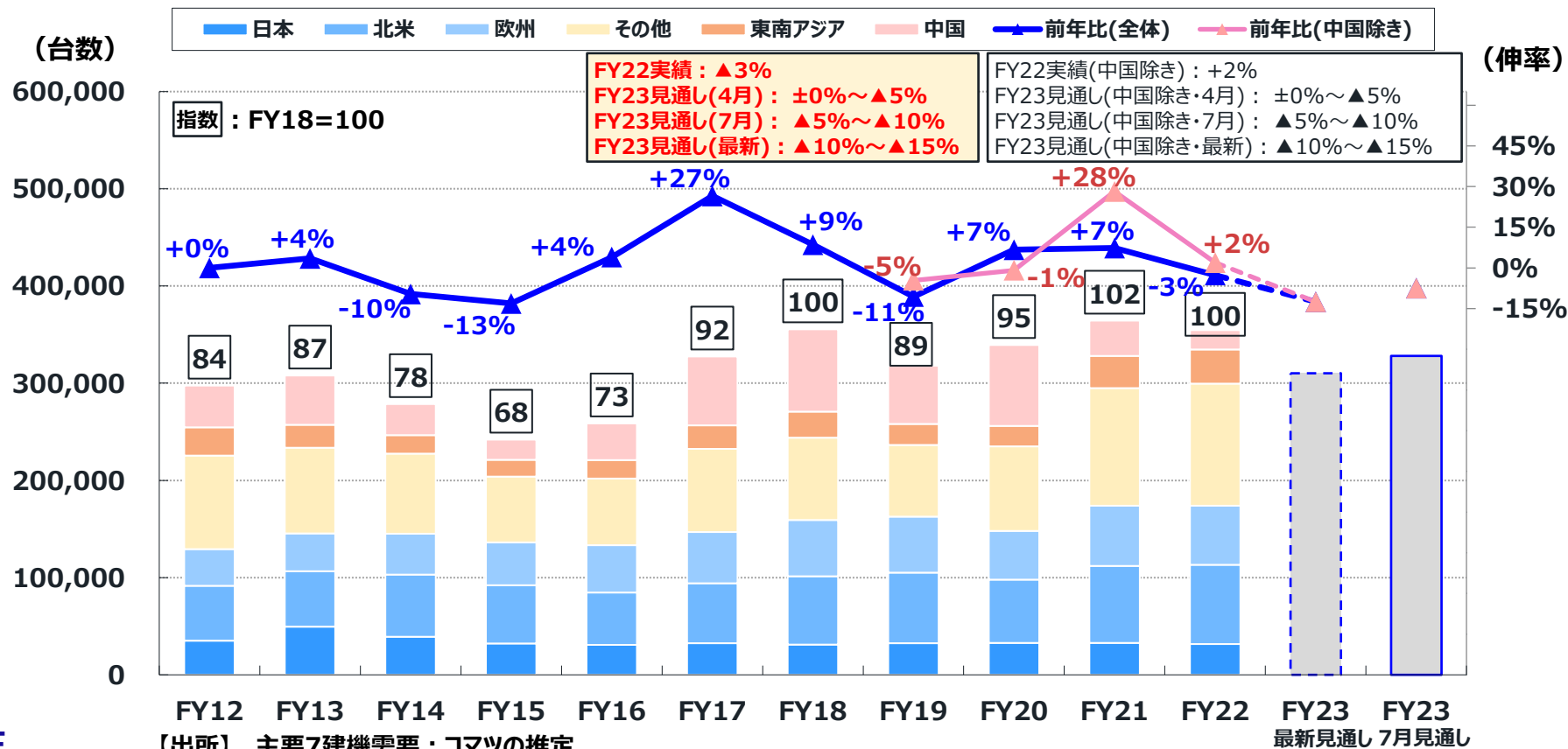
販売価アップと原価上昇の推移



- FY23は原価アップが一段落する一方、値上げをFY22並みに実施
- FY21-FY23累計で原価上昇を上回る販売価アップを実現できる見込み**

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- 2023年度の需要は、前年比▲10%～▲15%の見通し（7月見通しより変更）。
- 中国を除く地域でも、前年比▲10%～▲15%の見通し（7月見通しより変更）。



主要7建機



ブルドーザー



油圧ショベル
(クローラー式)



油圧ショベル
(タイヤ式)



ホイールローダー



ダンプトラック



アーティキュレート
ダンプトラック



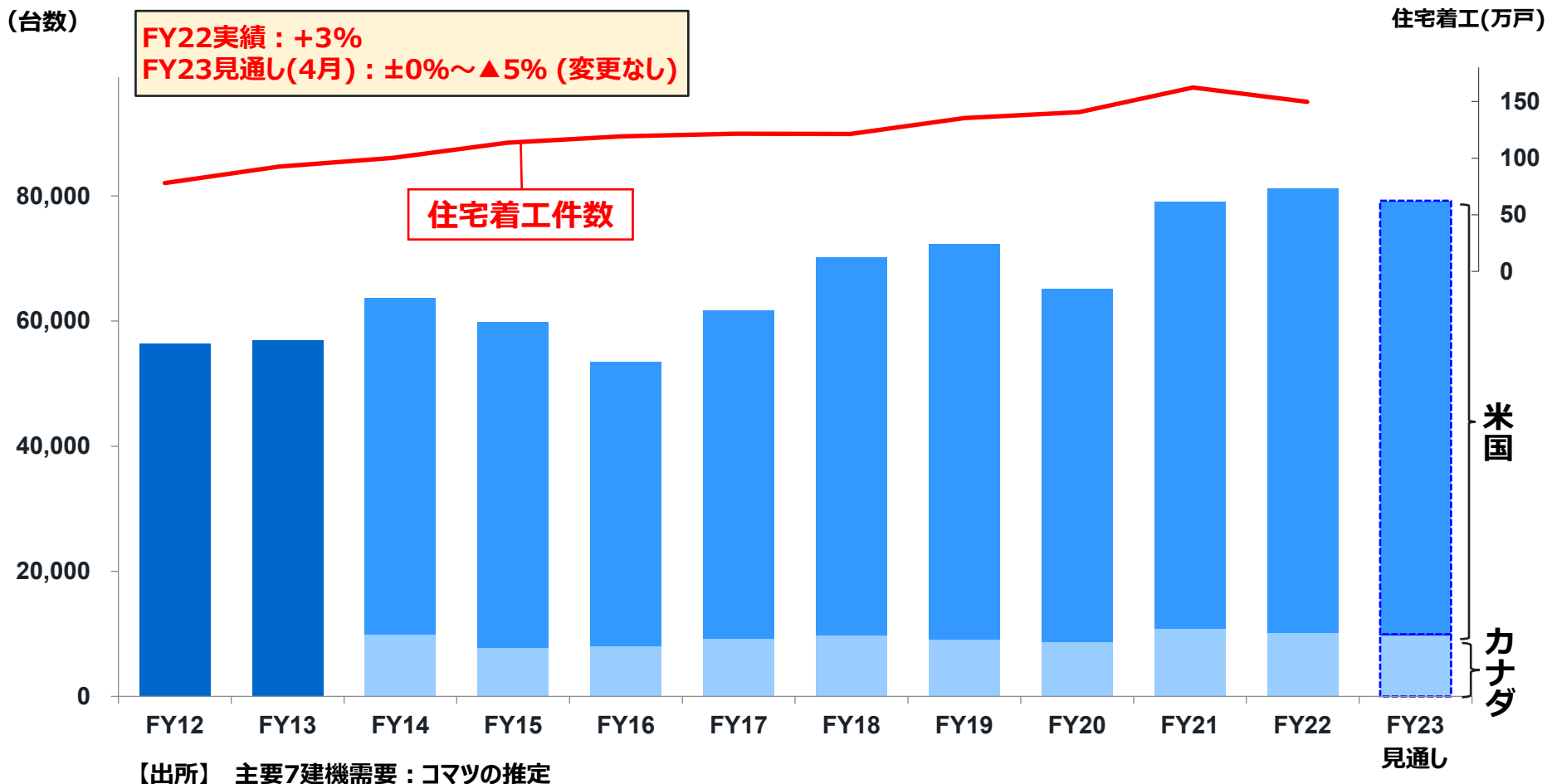
モーターグレーダー

KOMATSU

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- 2023年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し（4月見通しから変更なし）。
- 金利上昇の影響で住宅建設向けの減少傾向があるものの、レンタル、インフラ、エネルギー関連向けが好調に推移。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

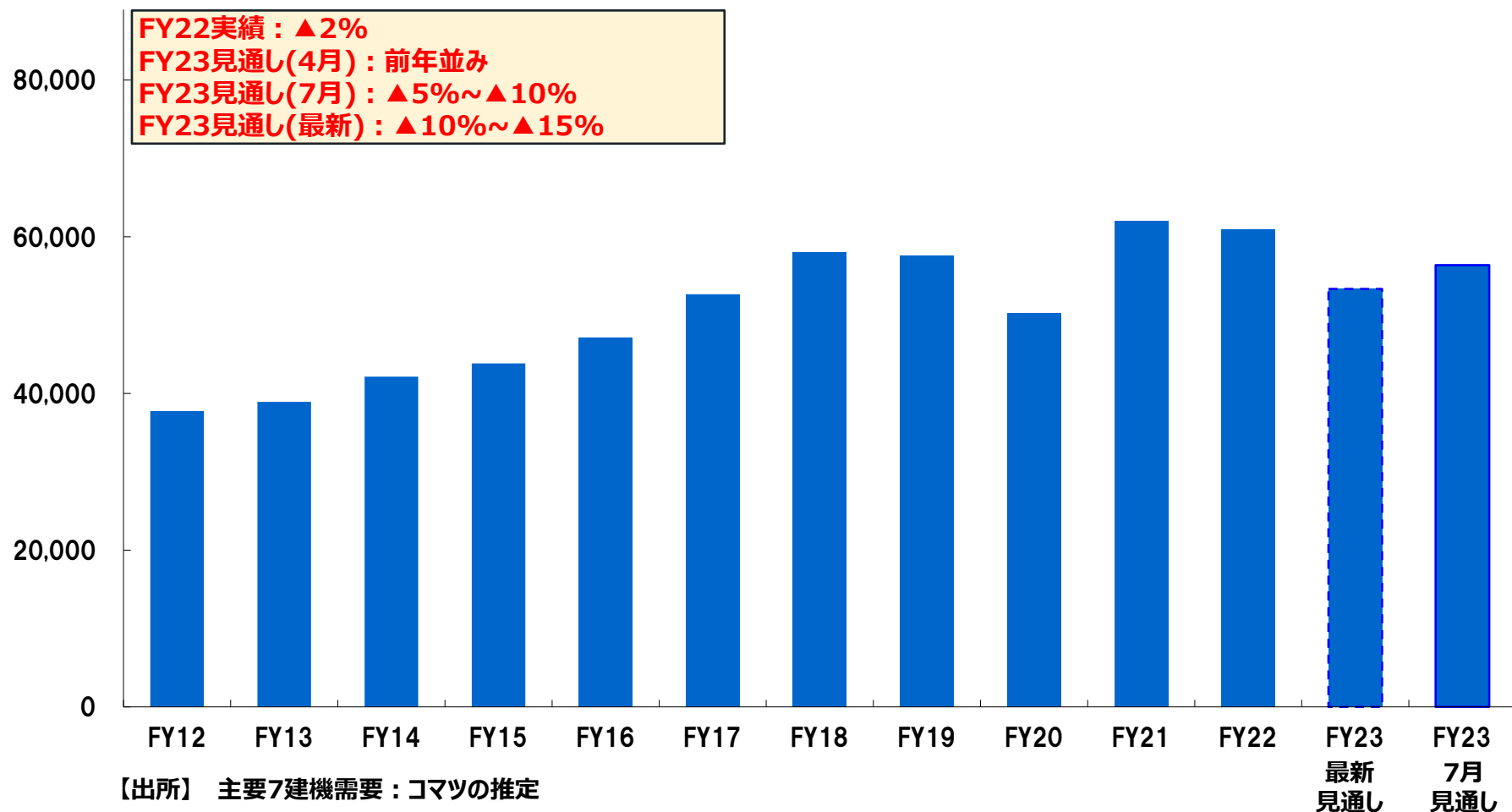


<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：③ 欧州

- 2023年度の需要は、前年比▲10%～▲15%の見通し（7月見通しより変更）。
- 急速な金利上昇と持続的な高インフレ等による影響で、主要市場のひとつであるイギリスや、イタリアなどを中心に一般建機の需要が減少。

主要7建機 年度別需要推移

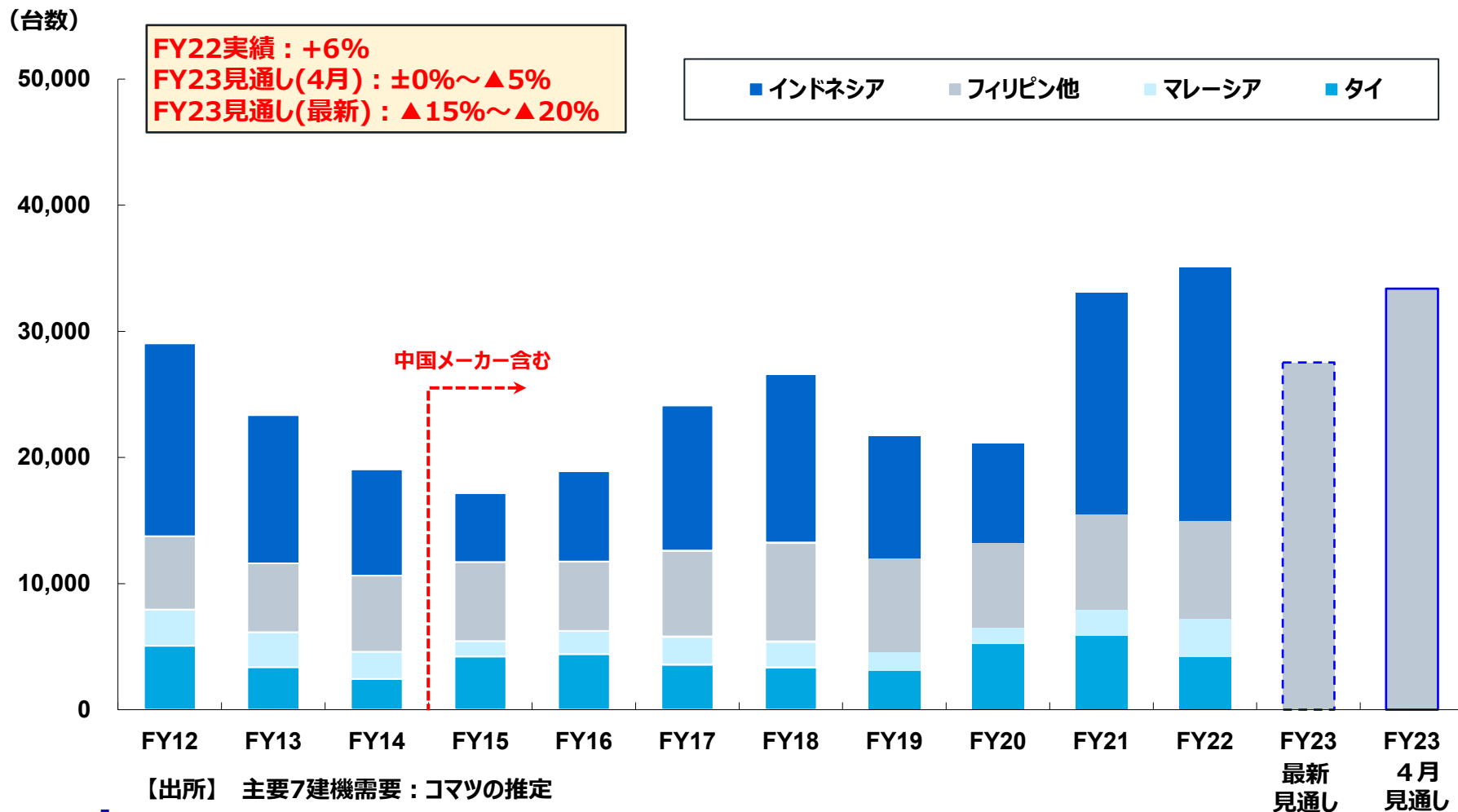
(台数)



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し： ⑤ 東南アジア

- 2023年度の需要は、前年比▲15%～▲20%の見通し（4月見通しより変更）。
- 鉱山機械ではインドネシアなどで需要が堅調に推移したものの、一般建機ではインドネシア、タイ、ベトナムなどで公共事業予算執行の遅れなどにより需要が大幅に減少。

主要7建機 年度別需要推移



<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

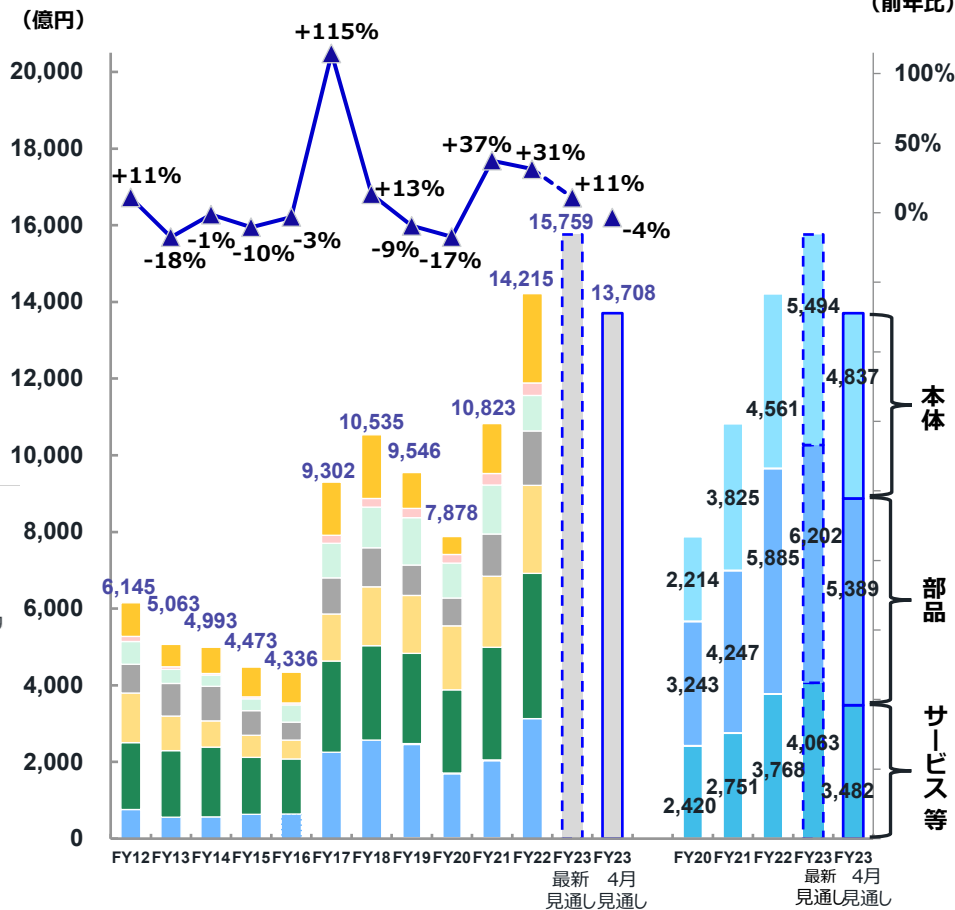
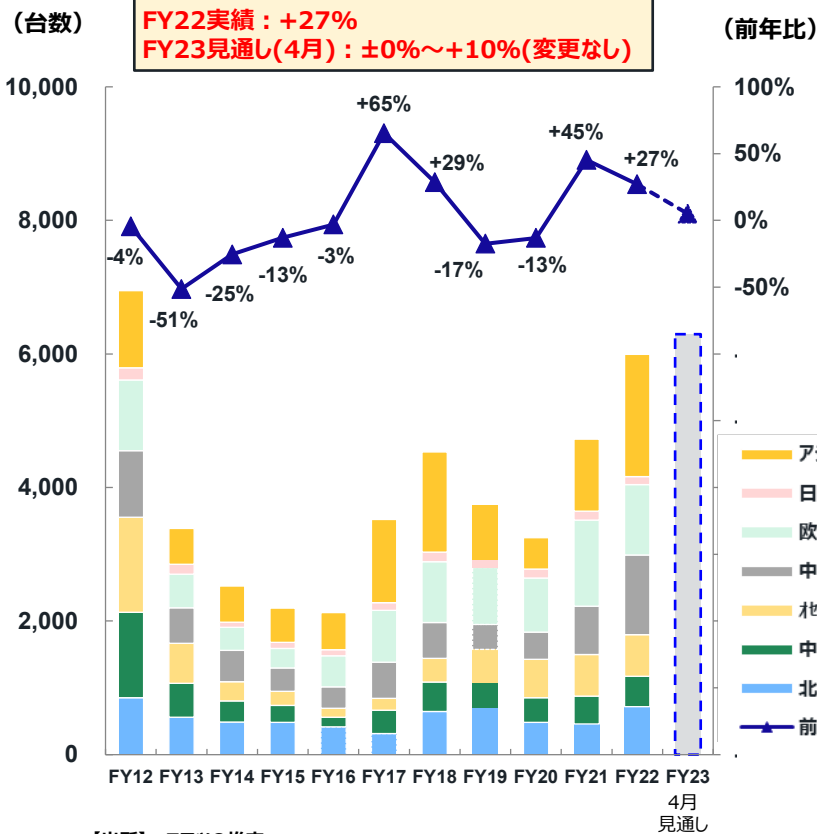
- 2023年度の需要は、前年比±0%～+10%の見通し（4月見通しから変更無し）。
- 2023年度の売上高は、前年比+11%増収の1兆5,759億円の見通し（4月見通しより変更）。

鉱山機械 年度別需要推移

鉱山機械 年度別売上高（部品・サービス等含む）

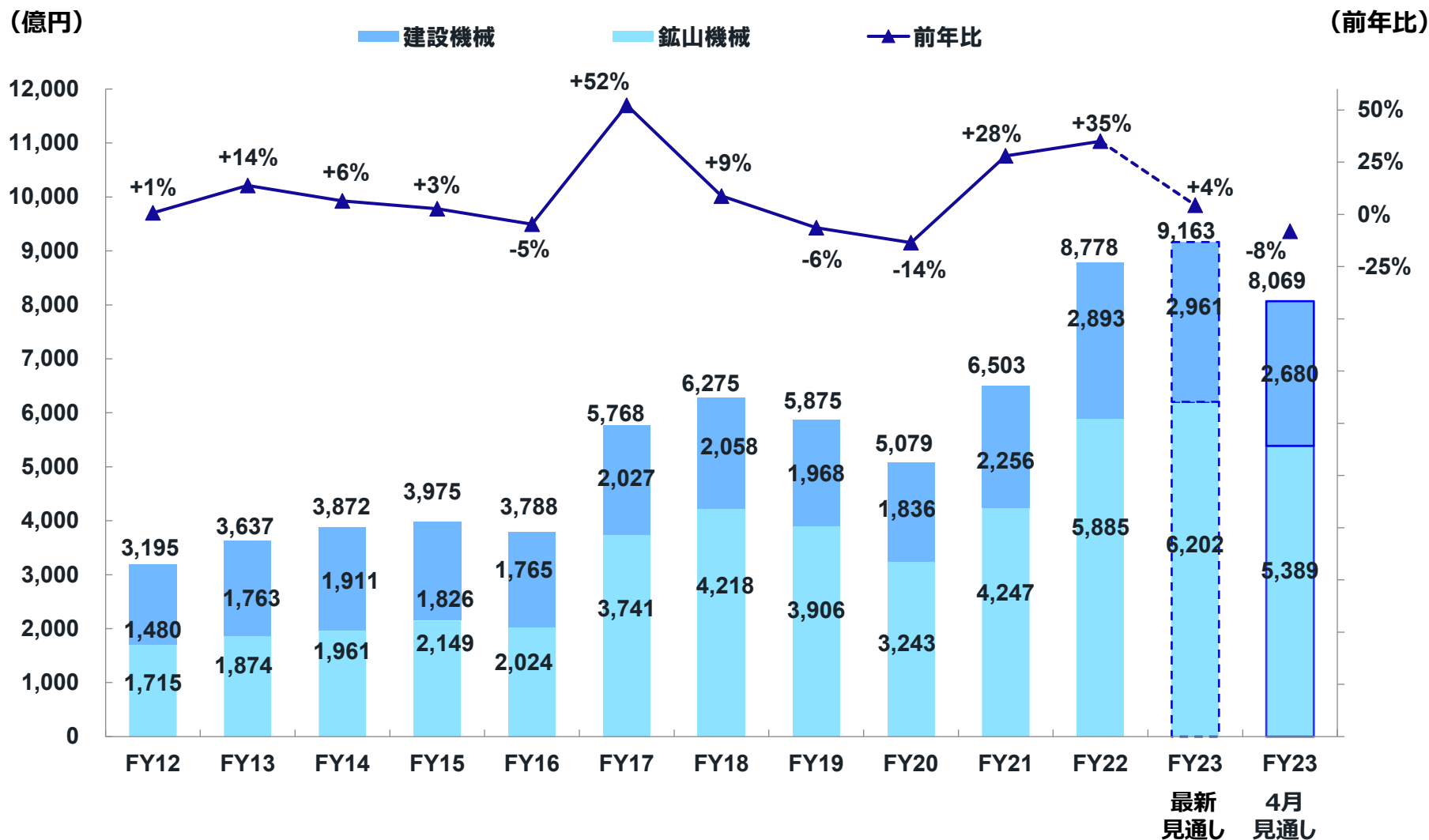
- ダンプトラック：75 t（HD785）以上
- ブルドーザー：525HP（D375）以上
- エクスキャバター：200 t（PC2000）以上
- ホイールローダー（機械駆動）：810HP（WA800）以上
- モーターローダー：280HP（GD825）以上

- 北米
- 中近東・アフリカ
- アジア
- 中南米
- 欧州・CIS
- 前年比
- オセアニア
- 日本・中国



<建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

- 2023年度の部品売上高は、前年比+4%増収の9,163億円の見通し（4月見通しより変更）。



キャッシュ・アロケーションの考え方

- 営業キャッシュ・フローの資金使途は、①設備投資（成長戦略）②借入金の削減（財務健全性維持）、③株主還元 にバランスよく配分。
- キャッシュ・アロケーションの原資となる営業キャッシュ・フローの拡大とともに、将来の安定的な株主還元を継続するため、成長分野への効率的な投資を図る。

営業CF

設備投資	通常投資	35-45%	営業キャッシュフローの約半分を成長投資に充当
	リース・レンタル用投資	5-15%	
	計	約50%	
株主還元		25-35%	連結配当性向40%以上
借入金の返済		15-25%	業界トップレベルの財務体質
+			
M&A		+α	外部リソースの活用を常に検討

配当方針

- 当社は、持続的な企業価値の増大を目指し、健全な財務体質の構築と競争力強化に努めています。
- 配当金につきましては、連結業績に加え、将来の投資計画やキャッシュ・フローなどを総合的に勘案し、引き続き安定的な配当の継続に努めていく方針です。
- 具体的には、**連結配当性向を40%以上とする方針**です。

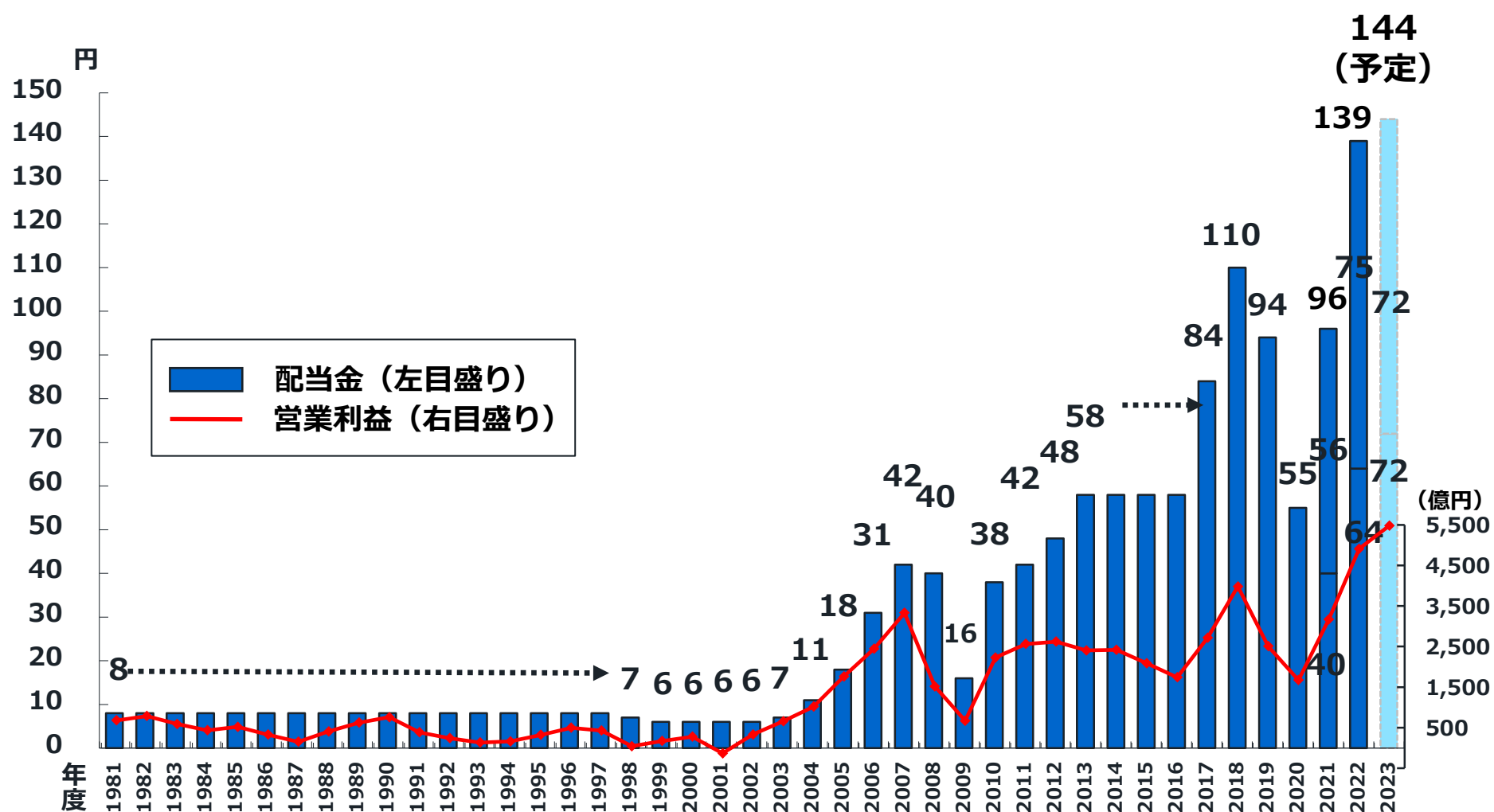
<連結配当性向推移>

	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23予想
配当方針	20%以上		20%~40%				30%~50%			40%~60%			40%~					
連結配当性向 総還元性向	19%	20%	40% 88% *	38% *	24%	24% 42%	36%	35%	36% 55%	40%	48%	40%	41%	58%	49% ※	40.3%	40.3%	40.1%

* 2008年度、2009年度は構造改革費用を除いたベース

※ 2020年度の1株当たり配当金には、当社創立100周年の記念配当10円を含む。

配当金の推移



2020年度は記念配当金10円を含む

配当金に加えて、2008年度、2011年度、2014年度にそれぞれ約300億円の自己株式取得を実施



- 2008年よりNPO「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、地雷処理から復興までのコミュニティ開発を目的とした支援活動に取り組む。

地雷原



機械で素早く
安全に除去

コミュニティの復興



ブルドーザーベース
<地雷処理用>



油圧ショベルベース
<不発弾処理用>

地雷除去活動



インフラ・農地整備



学校建設



ご清聴ありがとうございました。



【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ サステナビリティ推進本部コーポレートコミュニケーション部 TEL: 03-5561-4711 <https://www.komatsu.jp/ja>

質疑応答

坑内掘りハードロック向け鉱山機械事業の取り組み

- 商品ラインナップの拡充と坑内ソリューションの技術・ノウハウ獲得により、更なる成長を目指す。
- 気候変動への意識の高まりや環境問題の深刻化に対応するため、新商品とともに新工法を開発。

<新商品開発スローガン>

「No Blasting」

発破の必要がない掘削

「No Batch」

バッチ処理を行わない連続掘削

「No Diesel」

ディーゼル不使用

鉱山機械ラインナップの拡充

～ドイツGHH社の買収～



GHH社の坑内掘りダンプトラック

デジタルソリューション技術の獲得

～豪州マインサイトテクノロジーズ社の買収～



坑内掘り鉱山向けの通信システムと
坑内測位・近接検知ソリューション

既存製品における

ダントツ商品開発・電動化

～米国プロテラ社との協業契約を締結～



プロテラ社リチウムイオンバッテリー
搭載のLHDのイメージ

岩盤掘削新工法実現のための

新たなチャレンジ

～メカニカルカッターMC51トライアル実施中～



Vale社のGarson Nickel Mine(カナダ)
のほか、顧客現場でトライアル実施中

坑道掘削新工法実現のための

新たなチャレンジ

～チリ国営のコデルコ社とのマイニングTBMトライアル～



コデルコ社のチュキカマタ鉱山(チリ)
でトライアル開始予定(FY25以降)

- 「持続可能な循環型林業」に貢献するため、植林・造林、育林、伐採のあらゆる工程の機械化を進めている。

植林分野への新商品導入

植林



自動運転植林機
D61EM-23M0

2022年7月
植林用アタッチメントメーカー
「ブラッケ社」買収

地拵え



地拵え用機械
D85EX サブソイラー



伐採、搬出作業の生産性・安全性向上

伐倒



油圧ショベルベースの林業機械
PC130F ハーベスター仕様

搬出



傾斜地にも対応する集材作業車
フォワーダー895

参考資料

長期保有株主さまへの感謝品

- ・当社株式を長期保有いただいている株主さまに感謝品を進呈
(2014年7月より制度スタート)



- コマツ製品のオリジナルミニチュア(非売品)を対象の株主さまに進呈。
- 森林の立木の伐採に使用される林業機械ハーベスタをミニチュアにしました。

2023年度進呈

・931XC ホイールハーベスター

※ 画像はイメージです

対象となる株主さま

基準日(毎年3月31日)現在、当社株式の保有期間が**3年以上**(*)保有し、
かつ**3単元(300株)**以上を保有の株主さま

*毎年3月31日および9月30日現在の株主名簿に、同一株主番号で、基準日を含めて7回以上連続して当社株式を保有していたと記載されている方

個人投資家・株主さまとのコミュニケーション

施設見学会の積極開催



社長のインタビューをウェブサイトに掲示



個人投資家向け説明会

<オンライン開催>

コマツの歴史～創業者の精神～

創業者 竹内 明太郎（高知県宿毛市出身）の志

工業富國基

工業は国を富ませる基なり
人材育成こそが工業富國基の基本

➢ 鉱山機械開発のため小松鉄工所を設立（1917年）
➢ 1921年5月13日 株式会社小松製作所の誕生

創業の精神は、道伝子として受け継がれる
～世界に通用する技術を生み出し、世界を相手に勝負する～

創業者 竹内 明太郎

- ◆品質第一
- ◆技術革新
- ◆海外への雄飛
- ◆人材育成

中間報告書 直近の事業状況や イベントをご紹介します (郵送)

154冊
株主の皆さまへ
中間報告書
2022年4月1日～2022年9月30日

オンライン株主説明会のご案内も別紙をご郵送いたします。
*1冊目「Komatsu 2023」は追加でご郵送のお願いは別途メールにて
*2冊目以降は「株主説明会」の開催要領を添付いたします。

INFORMATION

参加費無料
見学会のご案内
株主の皆さまに当財へのご関心を深めていただくため、見学会を開催しております。見学会では、最新の事業状況や最新の設備展示、最新の技術展示など、ご関心のある分野について詳しくご説明いたします。ご参加の申し込みは、株主説明会事務局までお願いいたします。ご参加の申し込みは、株主説明会事務局までお願いいたします。ご参加の申し込みは、株主説明会事務局までお願いいたします。

2022年12月1日(水) 午前9時～午後5時
12月20日(水) 午後5時

開催日時	開催場所	対象	参加費	申込	備考
1	オンライン	2022/12/1 13:30 - 2022/12/1 15:00	0冊	株主さま専用	株主さま専用
2	オンライン	2022/12/1 15:30 - 2022/12/1 17:00	100冊	株主さま専用	株主さま専用
3	大宮工場	2023/1/10 13:30 - 2023/1/10 15:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
4	大宮工場	2023/1/10 15:30 - 2023/1/10 17:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
5	小松工場	2023/1/17 13:30 - 2023/1/17 15:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
6	小松工場	2023/1/17 15:30 - 2023/1/17 17:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
7	小松工場	2023/1/24 13:30 - 2023/1/24 15:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
8	小松工場	2023/1/24 15:30 - 2023/1/24 17:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
9	東京工場	2023/1/31 13:30 - 2023/1/31 15:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用
10	東京工場	2023/1/31 15:30 - 2023/1/31 17:00	80冊	株主さま専用	株主さま専用

- ・ コマツでは、7つの主要な建設・鉱山機械について、地域別に需要を推定。（台数ベース）

主要7建機



ブルドーザー



油圧ショベル
（クローラー式）



油圧ショベル
（タイヤ式）



ホイールローダー



ダンプトラック



アーティキュレート
ダンプトラック



モーターグレーダー

主要7建機需要伸び率（前年同月比）

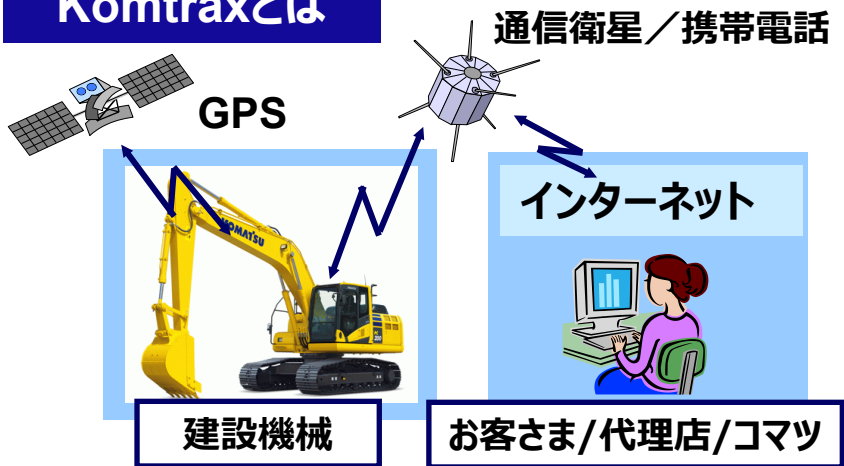
コマツウェブサイト 需要・受注・稼働データ

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/demand-orders>

用語説明 ②Komtrax稼働時間

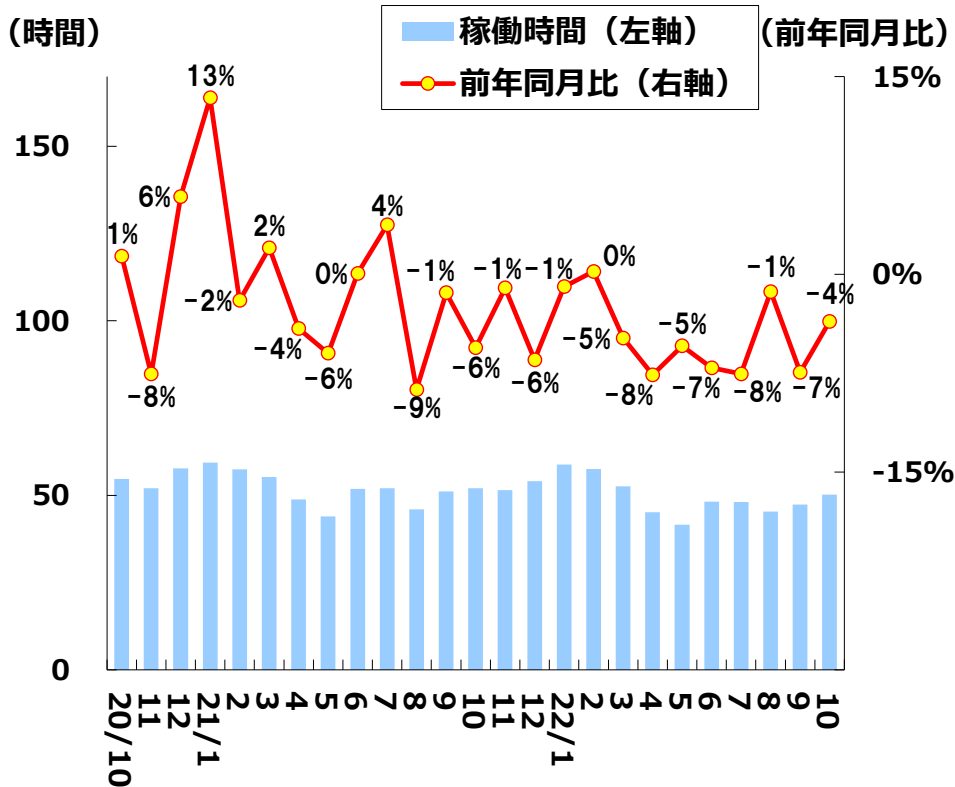
- Komtrax (Komatsu Machine Tracking System) とは、GPS等により遠隔地から機械の位置や稼働状況を把握・管理できるシステム。
- Komtraxから得られる機械の稼働時間を分析することで需要動向をよりタイムリーに把握。

Komtraxとは



全世界合計 約68万台(2022年5月末現在)

Komtrax月平均稼働時間推移 (日本)



Komtrax月平均稼働時間 (前年同月比)

コマツウェブサイト 需要・受注・稼働データ <https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/demand-orders>

用語説明 ③物量差・構成差・販売価格差

- ・建設機械・車両の売上高とセグメント利益の増減要因は対前年同期比で分析・掲載。
- ・売上高の増減の他、製品・地域の構成や販売条件等の違いにより差異が発生する。

物量差

- ・売上高の増減とそれに伴う利益の増減。

構成差

- ・製品別では、コマツが強みとしている鉱山機械やアフターマーケット事業の収益力が高い。
- ・地域別では、鉱山機械の構成比が高い戦略市場の収益性が高い傾向がある。

<鉱山機械>



<アフターマーケット>



消耗部品

定期交換部品

販売価格差

- ・販売価格の差異。値上げにより増加、値下げにより減少する。